

ヨコハマ市民まち普請事業

第二次整備提案書

注1) 2号様式はページを増やさず、必ず3ページ以内でまとめてください。

注2) 2号様式は市民に公開しますので、個人が特定できる情報は記入しないでください。

1 整備提案の概要について

整備提案名 (25字以内)	平安町 災害・福祉地域交流センター
提案グループ名 (25字以内)	平安町 災害・福祉地域交流センター建設委員会
整備場所の所在 町名又は丁目まで記入	鶴見区 平安町1丁目
施設整備の概要	平成30年度に完成の2階建て延べ床面積約50坪(165㎡) 「平安町 災害・福祉地域交流センター」として開設する。 耐震・耐火の安全な建物とする。周囲の空きスペースを緑化する。 《平常時活用と災害時活用の二面性を備えている》 ○平常時 福祉活動・地域交流事業・子供広場等 エレベーター・多目的トイレの設置により2Fがマイノリティーの方々の専用スペースとして活用ができる (<u>包括支援センターのサテライトとしての機能</u>) ○災害時 水害に耐える2Fに備蓄庫・災害時に対応した設備 (<u>鶴見区災害ボランティアセンターのサテライト機能</u>)
整備助成金申請 予定額	500 万円
設計及び整備の スケジュール	平成29年11月基本設計の決定・建築確認申請 平成30年1月・2月 建設業者の入札、3月 業者決定 平成30年4月以降 建築開始、12月落成の予定、31年1月開所

2 創意工夫について

計画について、 特に工夫した点 を記入してくだ さい。 (住民等が持つ発 想、方法などを生 かしたアイデアや ユニークさ及びデ ザインへの配慮)	災害・福祉地域交流センター・全ての事業を表した名称。 建物を町会が建て、利用団体が自主的に運営できる仕組みづくりを進めている。町会への加入を問わず子供や高齢者、子育てママさんなどが自ら、自由に運営できるセンターとしての機能をまち普請助成金で整備し、 <u>ユニバーサルデザイン</u> とすることで町会会館との差別化を図る ○地域交流センターとして、見取り図は回覧で募集、その結果、地域の設計の専門家が無償ボランティアで参加、住民全体の手作り感を重視した設計となった。大きな経費節減ともなった。 ○2Fを子供に安全・安心なベビールーム、 <u>マイノリティー</u> の方の活用、災害時要援護者の一時の避難所、災害ボラセンの立ち上げ資材備蓄 ○少数意見を取り入れた2Fの利用方法や住民の関心事である災害時の地域の防災・復興拠点としての機能の充実。(防災訓練拠点)
整備における地域 での費用や労力の 負担について、特 に工夫した点を記 入してください。	○1Fの子供広場の本棚は住民手作りとした。空地の緑化に対応して雨水タンク・簡易井戸を計画している。非常時の蓄電を計画中です。 井戸掘り、花壇づくりも子供を交えた住民の手作りとする。 ○備品、簡単な設備は事前登録団体(募集中)によって手作りとする。 ○助成金での不足部分は広く住民の寄付を仰いで(総会決定)広く <u>関心を喚起すること</u> を目的とする。

<p>※詳細については「想定整費用内訳(第3号様式)」記してください。</p>	<p>○建築が始まり次第、備品のご寄付登録を開始する。 ※耐久性を求められる建設部分は、専門家にゆだねることとした。</p>
<p>整備した施設の維持管理・運営注5)計画及びその実施方法などについて、特に工夫した点を記入してください。 注5)施設を活用したまちづくりイベント等を含む。</p>	<p>建物の維持管理は基本的には所有者である町会が行う。 ○運営は平常時には活動者の自主運営方式を目指す(小学生以上) ○各種活動のボランティア講師を既に登録中です(現在3名・2団体) ○各利用者が継続的に使用することにより常駐体制に近づける。 ○利用者が安全点検・清掃等を義務化して利用料金の圧縮を図る。 (当面、鍵管理とローテーション表は会館管理者にお願いする) ○全体イベントは利用団体の有志により実行委員会方式で実施する。 (隣接している町会会館と連動した大規模なイベントが望める) 例・四季の伝統的なイベント・正月羽根つき大会・節分祭・節句ひな祭り・あまちゃ祭り・端午の節句・田植え祭り・七夕等 日本の伝統で心通わし絆をはぐくむ地域の祭りを子供から高齢者までそして心のバリアを排除した、だれでも参加できる集いの場を目指す、<u>ユニークな地域の交流センター</u>を目指す。 ○少年防災隊の募集開始、30年9月の防災訓練に備える。 ○災害時は全面的に町会の運営となり災害復興の拠点となる。</p>

3 実現性について

<p>地域(地権者、整備場所の近隣住民、地域住民、自治会町内会等)での合意形成や関係機関との調整結果の概要について記入してください。</p>	<p>平成27年7月に予定地を町会が取得、所有権が得られている。 ○隣接3世帯、近隣3世帯には地質検査・地盤調査等の際に利用内容等もまち普請事業の説明も丁寧に行い協力を得ている。 ○町会では施設についてアンケートを行い、その結果に基づき、総会で「災害・福祉地域交流センター」としての利用を可決いたしました。 ○町民には平成26年度～29年度の総会において、災害時・平常時の利用方法等運営面においても提案して了承を得ている。 ○まち普請事業会議の内容は毎月の理事会に諮り、回覧等で随時広報しより深く理解を求めている。</p>
--	---

4 公共性について

<p>地域のどのような課題やニーズに基づいて整備計画が作成されたのか、また整備した施設が地域にどのくらい貢献するか記入してください。 ※ 第一次整備提案書よりも具体的に記入してください。</p>	<p>町の最大の課題は鶴見川に近く浸水域にあり、現在は会館の地下の備蓄庫は適さない。町民の最大の関心事であり最大の懸案事項である。 (複数回答 アンケート・2F利用80%) ○現在の町会会館建設直後から人口の急増により、会議の開催にも不便を感じていた。(会場からあふれる)(アンケート・1F利用25%) ○福祉活動を推進するために必要な、<u>地域ケアプラザまで1キロ以上</u>、バスの路線便はなく<u>高齢者・障害者には利用できない</u>。 (複数回答のアンケート・1F利用88%) ○子供に限らず全ての年代で地域に<u>居場所がない</u>、集う場がない、住民の願いが一丸となり土地の取得につながった。(アンケート 全員) ○一町会の事業なので十分なスペースは確保できないが、活用方法で、今まで手助けのできなかった皆様に2Fを利用できるよう、あえて<u>エレベーターや多目的トイレ</u>を計画した(ユニバーサルデザイン)。 (子供から大人まで精神障害者が増加) (アンケート・2F利用12%) ○建物の管理は町会、運営は利用団体(町会も利用する)が自主的に 行う方針は現在の平安町福祉賛助会が平成3年に設立、福祉活動には垣根はない!を合言葉に<u>広く地域に開放</u>している実績がある。 ○広く・多くの住民との協働が可能であり、地域貢献度は計り知れない</p>
--	--

5 費用対効果について

<p>整備コスト削減について、特に工夫した点を記入してください。</p> <p>(材料の調達方法や施行業者への発注方法など)</p> <p>※ 整備に要する費用や労力の負担については、「2 創意工夫について」に記入してください。</p>	<p>整備費は持続可能な維持ができるよう、開設当初に必要な不可欠な5設備に絞った。《<u>まち普請事業助成金の範囲内</u>》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○初期設備に必要な、多目的トイレ・エレベーター・備蓄倉庫カウンターキッチン・本棚に絞り込みをした。 ○初期の設計から地域の専門業者のボランティア参加により無料で設計図等対応していただいている。 ○他の設備に関して各企業の協力を打診している(サンプル使用等) ○消耗品的設備品はできうる限り住民の皆様から寄付を仰ぐ。 ○開設までの1年間に各年代層、各種団体の活動参加者を募り手作りのセンターを目指す!(周辺の設備や備品) ○開設までの準備等、日常的な多くの人手については運営スタッフ22名、町会スタッフ29名が惜しげなく勤労奉仕に参加している。
--	--

6 地域まちづくりへの発展性について

<p>整備をきっかけとして、地域コミュニティが広がる又は深まる可能性、及び地域のまちづくり活動が活発化する可能性について記入してください。</p>	<p>《<u>平常時</u>》には福祉活動や交流の場として、高齢者・子ども・子育てママ障害者等の全ての世代が安心して集える居場所とする。災害に備えた要援護者支援活動・防災減災活動の拠点としても活用する (地域包括支援センター・地域ケアプラザの<u>サテライト機能</u>)</p> <p>《<u>災害時</u>》には地域の要援護者の一時の避難所として、また復興に不可欠な災害ボランティアセンターとしての機能を添える。 (長期運営災害ボランティアの<u>宿泊も視野</u>に入れている。2F) (鶴見区災害ボランティアセンターの<u>サテライト機能</u>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○既存の町会関連組織の活用に加えセンター利用者との交流を通して広域なつながりと多様な活動が生まれることにより、町民の参加機会がますます活発になる。<u>賑わいの中核</u>となる。 ○特に放課後の小学生の活動では、すでに祭り太鼓の地域継承が実績を積んでいる。大人から子供ではなく、先輩から後輩に!・・・このシステムを少年防災隊に生かしていきたい。 持続的・継続的に世代をつなぐ交流センターを目指します。
---	---

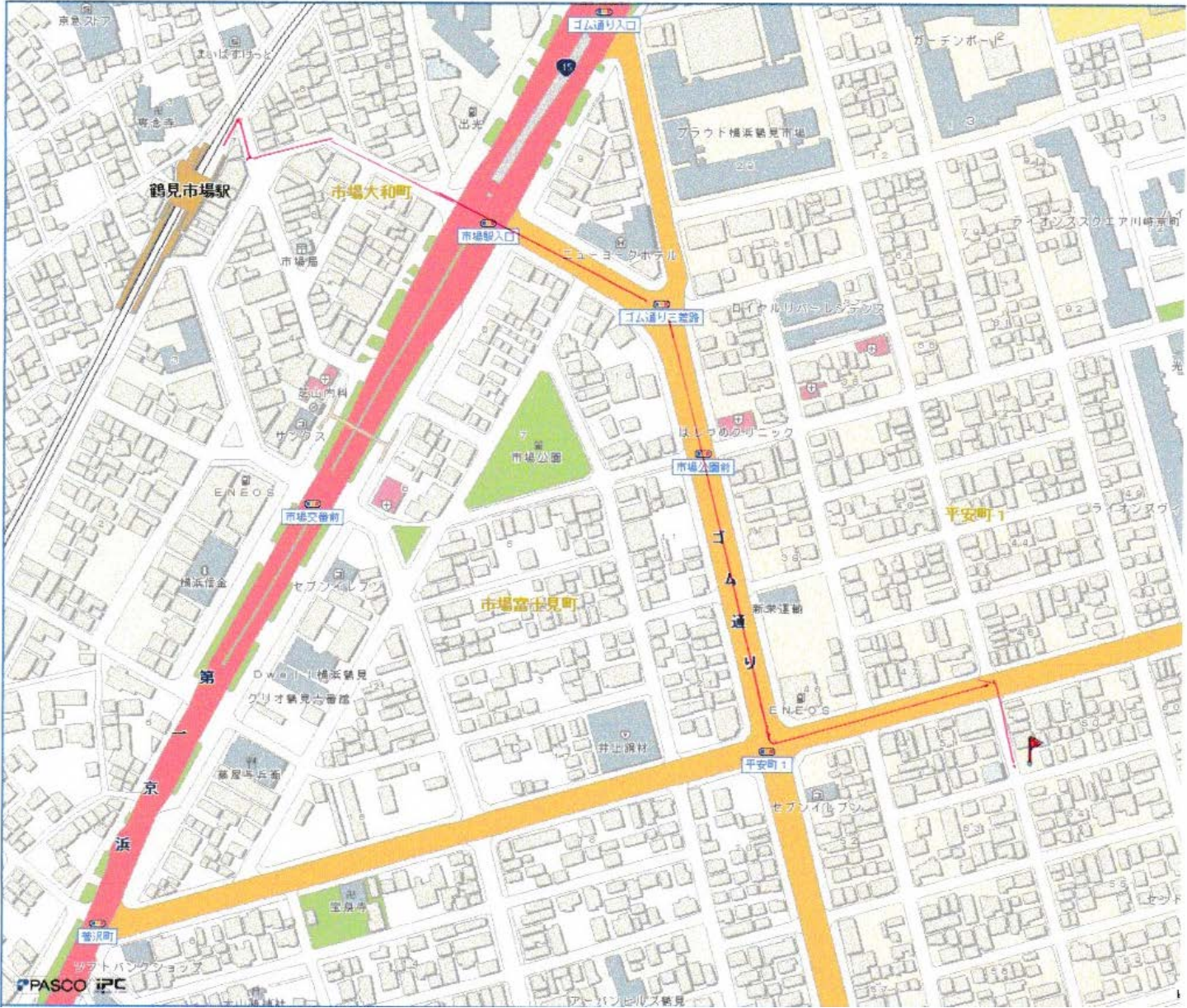
7 特にPRしたい点について

<p>提案について特にPRしたい点があれば、記入してください。</p>	<p><u>隣接した町会会館と趣を変えた、新たな発想と広範な連携を図り平常時と災害時の二面性を持った新たな地域交流センターを目指す。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ユニバーサルデザインによるマイノリティの居場所づくり ○環境にやさしい空地の緑化、ソーラーの設置(災害時のための蓄電池)等を計画しています。 ○企業とのマッチングも新たな企画運営に光をいただきました。 ご指導・ご支援をいただき市内全域の繋がりも次世代につなぐ大切な災害・福祉地域交流センターの役割であると認識して運営に生かしていきます。 ○まち普請事業に参加することにより得られた多くの成果を必ず実践に結び付けていきたい。すでに新センターに向け、新たな顔の見える関係が生まれている。 <p>※スタッフ一同「横浜に今までにない、地域交流センター」を実現することを目標にしています。</p>
-------------------------------------	--

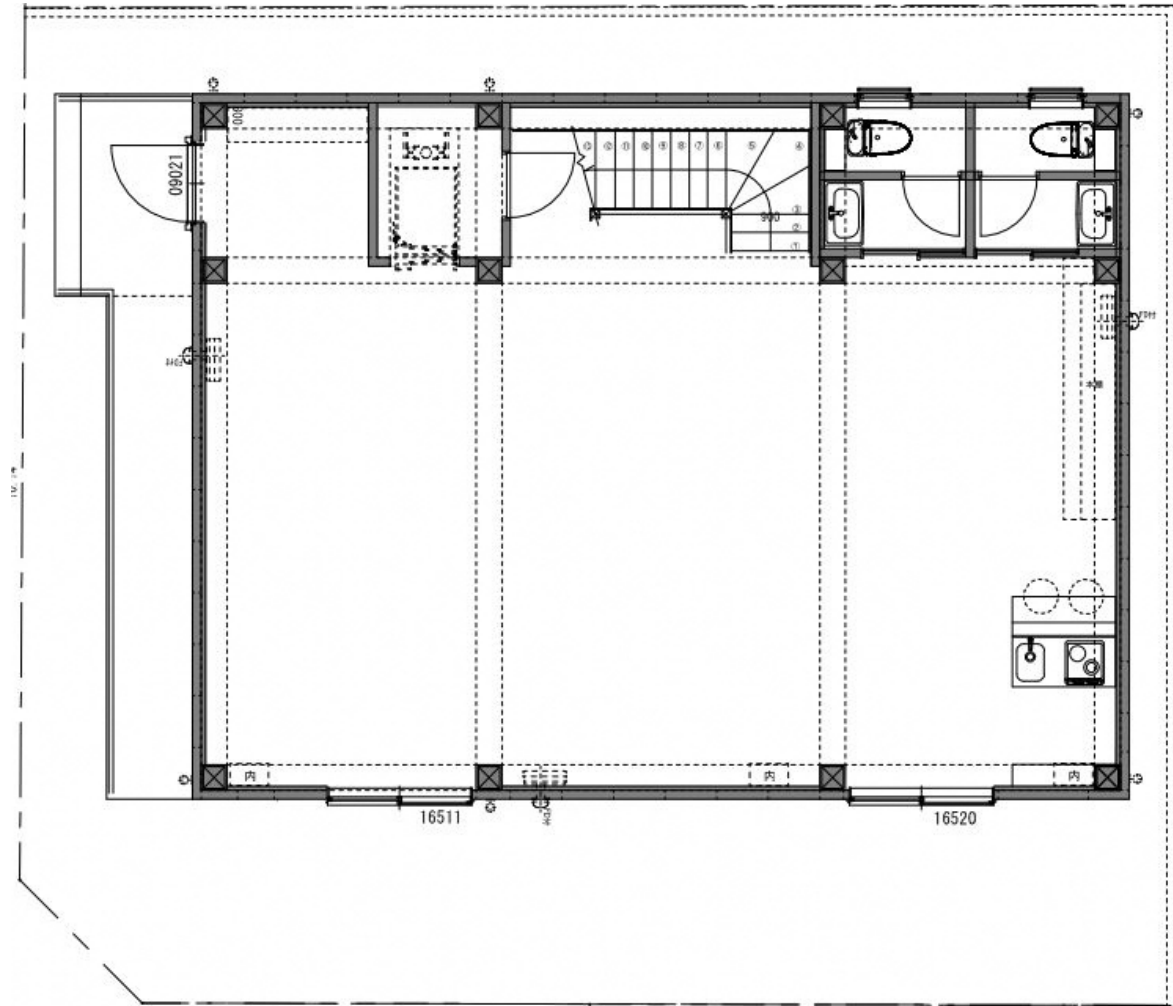
記載内容について次の点を確認後、チェックボックスに✓を入れてください。

- 記載内容は真実であり、虚偽はありません。
- 記載内容に個人情報はありません。

平安町 災害・福祉地域交流センター 位置図

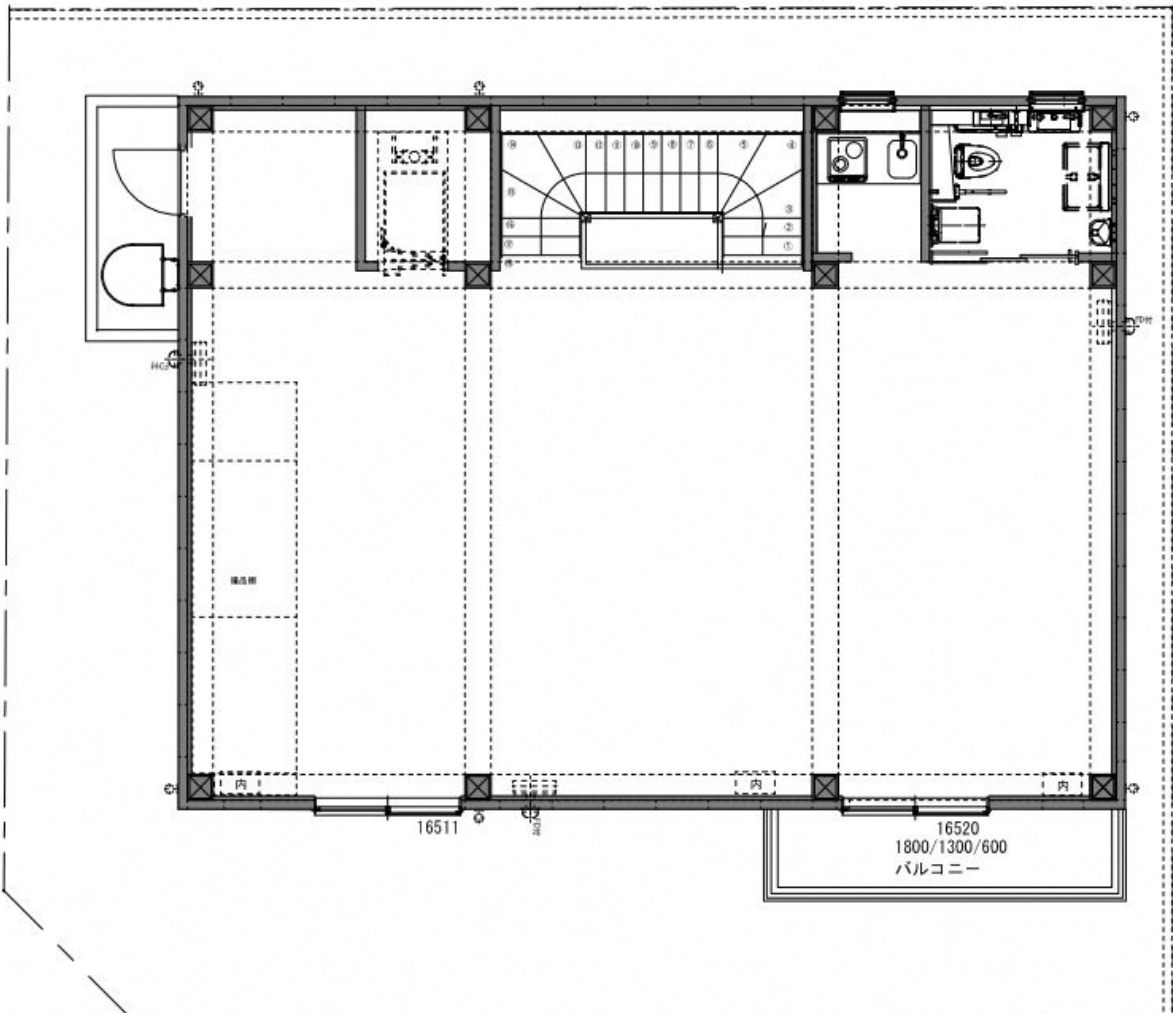


平安町 防災・福祉地域交流センター 平面図



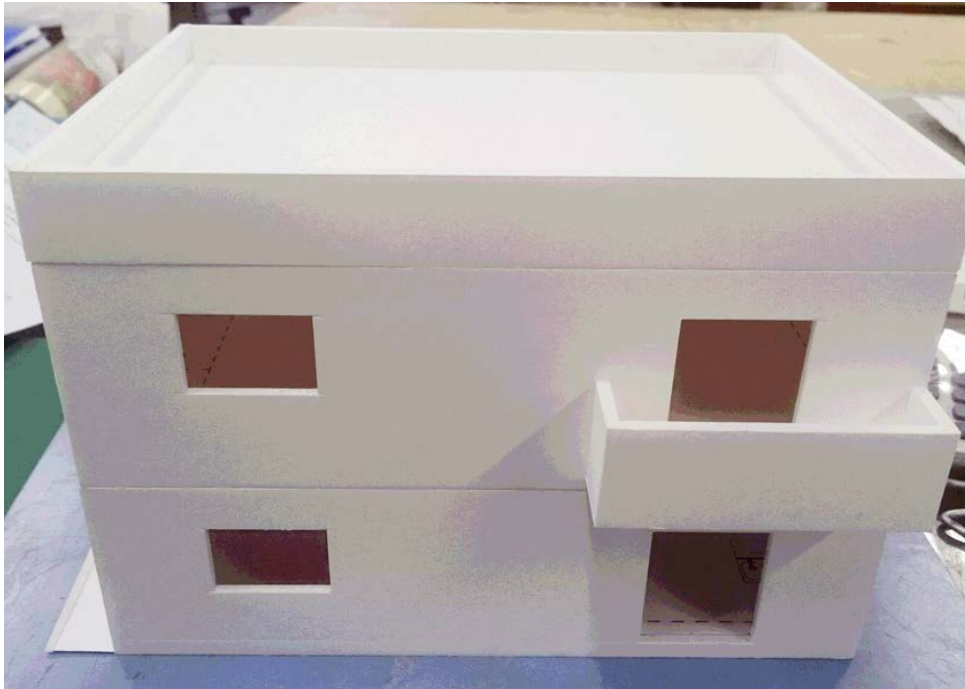
↑北

☞ 1 F

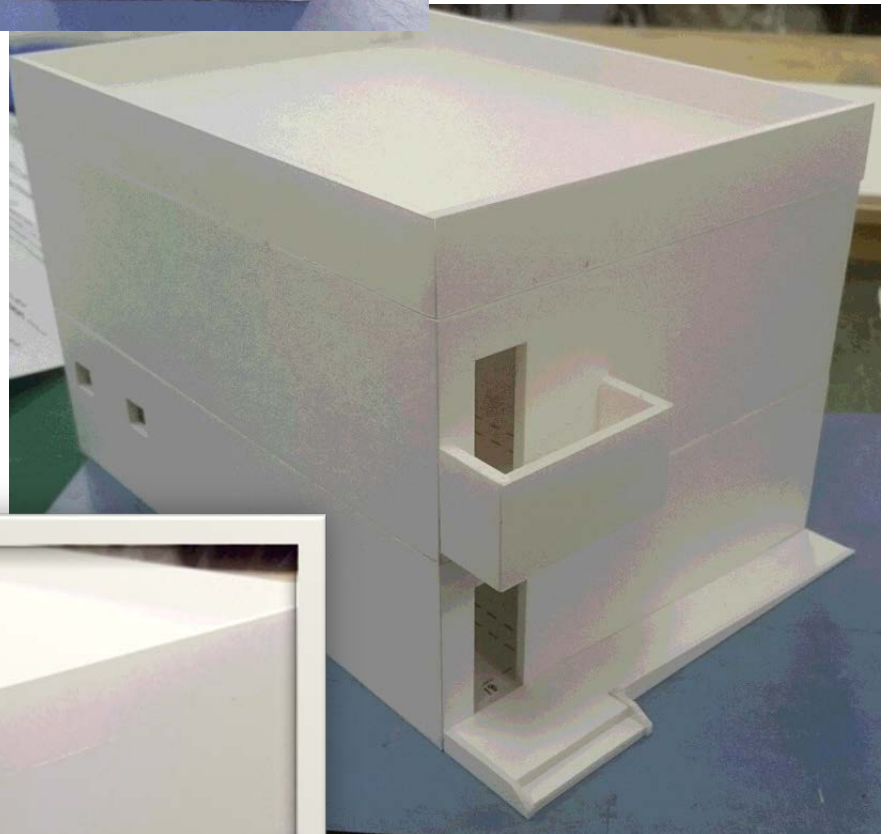


☞ p 2 F

建物 立体模型



東側正面



西側、南出入口



西側、北側面

ヨコハマ市民まち普請事業

想定整備費用内訳書

※ 記入上の注意

- 「主な整備項目」「細目」欄の記入にあたっては、事務局と事前に十分調整してください。
- 「数量」欄については、やむを得ない場合を除き、「一式」と記入しないでください。
- 「地域住民等の参加」欄については、例えば地域が労力を負担する場合は、何人くらいが何日間くらい作業を行うかなど、できるかぎり具体的に記入してください。（見込みも含めて記入してください。）また、小中学校や子供会などが参加する場合は、その旨を明記してください。

主な整備項目	細目	数量	単価	計	地域住民等の参加 (費用又は労力の負担等)
カウンター キッチン	両面对応	1台	395,000	395,000	設置後の管理清掃
壁面本棚	木製	1台	83,000	83,000	材料費のみ 子供会親子で制作
エレベーター	車いす対応	1基	2,400,000	2,400,000	設置後の管理清掃
多目的トイレ	ベビーチェア ベビーベット	1基	1,450,000	1,450,000	〃
防災収納庫	防災備蓄庫	1基	350,000	350,000	〃
緑化用井戸掘		1基		0	住民・子供会 協働作業
消費税				374,240	
合計				5,052,240	

平安町 災害・福祉交流センター 組織図

参考資料

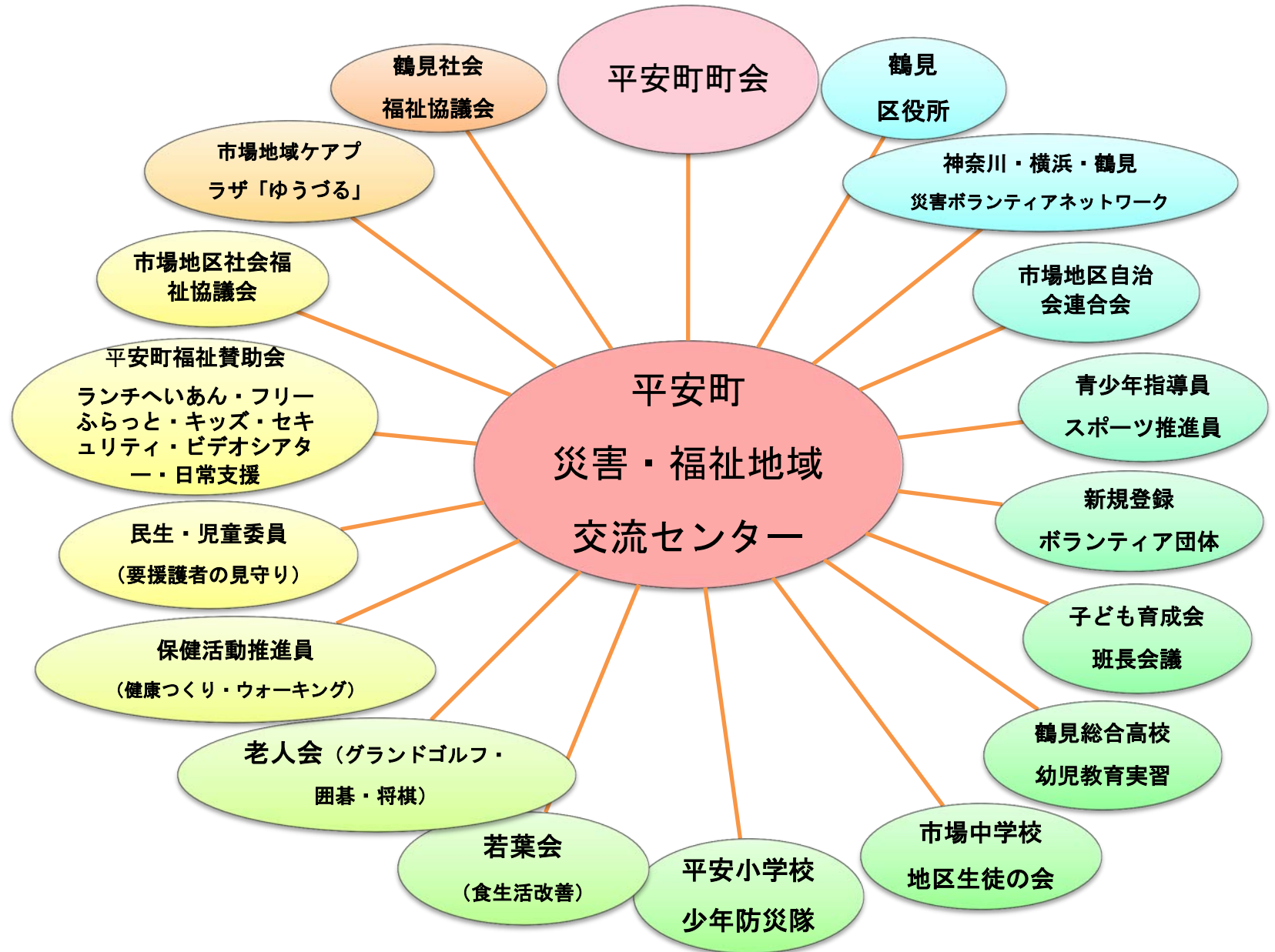
アンケート結果（複数回答）

＜1Fの利用＞

	一般	子供会
①子供の遊び場	34%	68%
②100円カレー	32%	67%
③高齢者活動	28%	14%
④防災訓練（泊）	24%	21%
⑤コーヒー	20%	14%
⑥お茶飲み会・囲碁・将棋・卓球 ダンス・ヨガ教室・ポッチャー		

＜2Fの利用＞

	一般	子供会
①防災備蓄庫	46%	29%
②防災会議室	32%	31%
③キッズルーム	32%	26%
④防災無線室	28%	29%
⑤障害者室（マイ）	12%	11%
⑥宿泊施設・麻雀室・貸し事務室 宿題室・災害ボランティアサテライト		



1階にて 活動多様



会食会



コーヒータム



手芸教室



健康体操



フォークダンス



社交ダンス



男の教室 野菜作り・雑煮作り



カレー作り



4年生の会館防災教室



学童の防災教室



ビデオシアター



囲碁



将棋



ゲーム



花植え



図書



見守り・訪問

2階にて 幼児・こども・障害者 備蓄倉庫

フリーふらっと



キッズルーム



親子体操



障害者・活動



備蓄・訓練



パーティション (段ボール)



簡易テント2~3人用と寝袋



スタンドパイプ



無線



非常食

